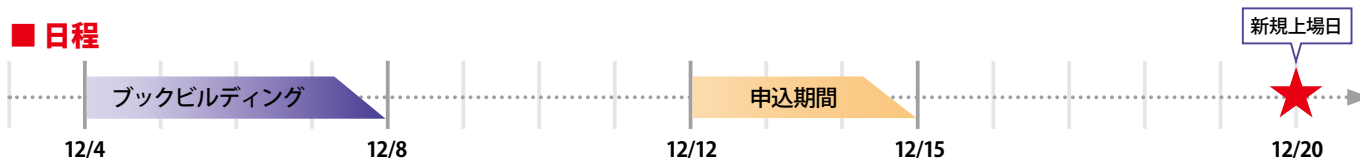


IPO銘柄 森六ホールディングス (4249・東証所属部未定)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
4249	100株	公募: 122.80万株 売出: 217.20万株 (OA51.00万株)	2,610円~2,700円 (8.2倍)	野村証券

■ 日程



自動車向け内外装樹脂部品など手掛ける創業350年以上の化学会社

■ 事業内容

1663年、江戸時代の寛文3年に創業した化学会社。ケミカル事業と樹脂加工製品事業が両輪。ケミカル事業では電機・電子材料や自動車材料、コーティング、ファインケミカルなどを手掛ける。創業から350年以上にわたって蓄積された化学品に対する知識、グローバルな販売網などを強みとする。樹脂加工部品は昭和33年(1958年)にホンダ(7267)のスーパーカブの外装部品を時代に先駆けて樹脂化したことが事業スタートのきっかけ。現在は主に自動車向けの内外装樹脂部品を手掛けている。自動車の軽量化が進められる中で鉄から樹脂への材料転換が進んでおり、製造ノウハウや加飾技術を強みに事業を展開している。売上高構成比はケミカル事業が37.9%、樹脂加工製品事業が62.1%。

■ 特徴

1663年に阿波徳島で天然藍と藍の肥料を販売したことが発祥で、江戸後期の1840年代に関西へ販路を拡大。1853年に関東地区の販売本部を設立した。ケミカル事業が現在の形になったのは昭和14年(1939年)から、現在主力の樹脂加工製品事業も昭和33年からと、同社の中ではともに歴史の浅い事業となっている。

アナリストコメント

■ 定量分析

18年3月期の連結経常利益は前期比28.5%増の76億8,900万円を見込む。主力の自動車産業が好況で、足元の業績はケミカル事業、樹脂加工製品事業ともに好調に推移している。上場後も主要取引先であるホンダの業績動向に影響を受けていきそうだ。

■ 定性分析

江戸時代創業の化学会社として話題。ただ、東証1部市場への上場となる見込みの老舗企業で、IPOマーケットで人気が出るタイプではない。PERは低いが、そもそも割安セクターだけに手掛かりとはならなそう。仮条件上限の配当利回りは3%程度ある。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約100億円。東証1部への上場が確実視される案件だけに機関投資家の参戦もありそうで荷もたれ感はない。株主は自己保有と持株会、創業家の他、取引先などで占められており、すぐに市場に流出しにくい構造となっている。

(小泉健太)

■ 類似企業

森六ホールディングス (4249・東証所属部未定)	予想PER8.2倍 (仮条件上限)
ファルテック (7215・東証1部)	予想PER27.0倍
イクヨ (7273・東証2部)	予想PER10.6倍

■ 引受証券

野村証券、SMBC日興証券、岡三証券、むさし証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、SBI証券、みずほ証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
16年3月期(実績)	172,224	6.9	6,076	▲2.4	3,320	▲15.5	224.2	20.00
17年3月期(実績)	170,005	▲1.3	5,985	▲1.5	1,026	▲69.1	69.3	22.50
18年3月期(会社予想)	176,498	3.8	7,689	28.5	4,994	4.9倍	329.6	80.00

※ 17年10月に株式分割(1株→2株)を実施。16年3月期と17年3月期のEPSおよび配当金は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
16年3月期	8,480	112,105	51,878	1,640	3,430.3	45.3	6.5
17年3月期	8,480	118,041	53,523	1,640	3,534.2	44.3	2.0

※ 16年3月期および17年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	森六ホールディングス	2,152,702	12.69
2	森六従業員持株会	1,815,006	10.70
3	三井化学	1,416,000	8.35
4	三井物産	1,128,000	6.65
5	森 茂	1,076,560	6.35
6	本田技研工業	792,000	4.67
7	三井住友銀行	530,000	3.13
7	りそな銀行	530,000	3.13
9	森 俊武	526,144	3.10
10	阿波銀行	526,000	3.10

経営陣

役職	氏名
代表取締役(社長執行役員)	三輪 繁信
取締役(執行役員)	須永 幹男
取締役(相談役)	森 茂
取締役(執行役員)	森 満里子
取締役(執行役員経理部長)	下迫 俊司
取締役	藤瀬 學
取締役	柴田 幸一郎
常勤監査役	赤谷 隆一
常勤監査役	多田 光一
監査役	川島 正
監査役	加治屋 光丸

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。